

ひかりのこ

2月園便り

聖ミカエル幼稚園
2020年1月24日

月主題：協力する

「小さいものを慈しむ」

幼稚園の3学期が始まるすぐ前の土曜日、日曜日に、日曜学校のお泊り会が行われました。私は、今年度から日曜学校を少しお手伝いして、オルガンの奏楽を主に行っています。今年は、お泊り会にミカエル幼稚園を卒園したばかりの小学校1年生が12人も参加すると聞き、園長の私としても、これはできるだけ手伝わなくちゃ、と思い参加しました。でも、私がお手伝いすることはあまりありませんでした。

お泊り会には、小学生、中学生、高校生、専門学校生や大学生も参加していました。皆さん、聖ミカエル幼稚園の卒園生、信者さんのお子さんや、教会の信者さんです。

その大きなお兄さん、お姉さんの小学生への対応が素晴らしかったのです。お泊り会では、ゲームがあったり、グループに分かれてお買い物をして夕食を自分たちで作る活動があったのですが、誰も声を荒げたり、乱暴な言葉をかけることなく、終始優しく、辛抱強く、そして楽しそうに、小さい人たちに教えてくれました。そして、ずっと楽しく遊んでくれたのです。その姿はとても自然に見えました。これはきっと幼稚園時代から育った心なのだなあ、と感じました。

先日、日曜学校に送り迎えにいらっしゃった卒園生のお母さんがこんなことをおっしゃっていました。

「この、日曜学校という場は、本当に不思議な、素敵な場だと思います。子どもたちが、ある時ふっと帰りたくなる場所なんです。

そして、いつ帰ってきても、日曜学校の先生たちや教会の皆さんが優しく迎えてくださる、そんな場所です。」

聖ミカエル幼稚園から繋がる、日曜学校。これからも、聖ミカエル幼稚園で育った子どもたちが、ニコニコしながら帰ってこられる場所として、日曜学校が続いてほしいと願います。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「歌とこころ」

私の母校である札幌市立白楊小学校に、「ポプラは風に負けてない～、どんなに風が強くても、ほら歌ってる、そびえてる～」と始まる歌があります（少し違うかもしれない）。半世紀以上経っても、このメロディーと歌詞は私の心の中にしっかりと根を張っています。小学校の周りにはポプラの木がたくさんあり、遊び場だった北大にもポプラ並木があります。台風でたまに倒れることはありますが、私の中ではポプラは決して倒れない木なのです。つらい時や、悲しい時には、いつも歌っている聖歌が口をついて出のですが、不思議なことに、いつのまにか「ポプラは風に負けてない～」と歌っている時があります。

いうまでもなく、歌には人を支える力があります。歌詞とメロディーが塊になって、心のつかえ棒になっているのです。幼稚園にいる間、子どもたちは多くの歌に出会います。子ども用の聖歌も覚えます。その聖歌が、大人になっても一人ひとりを支える柱になることを願っています。これもまた、これから卒園していく子どもたちへの幼稚園からの贈りものの一つなのです。

「どんなときでも どんなときでも 苦しみに負けず
くじけてはならない イエスさまの イエスさまの愛
があるから」
（讃美歌 21 533番）

チャプレン 司祭 下澤 昌